

相模トラフ沿いの最大クラスの地震における被害想定と対策（神奈川県・逗子市）

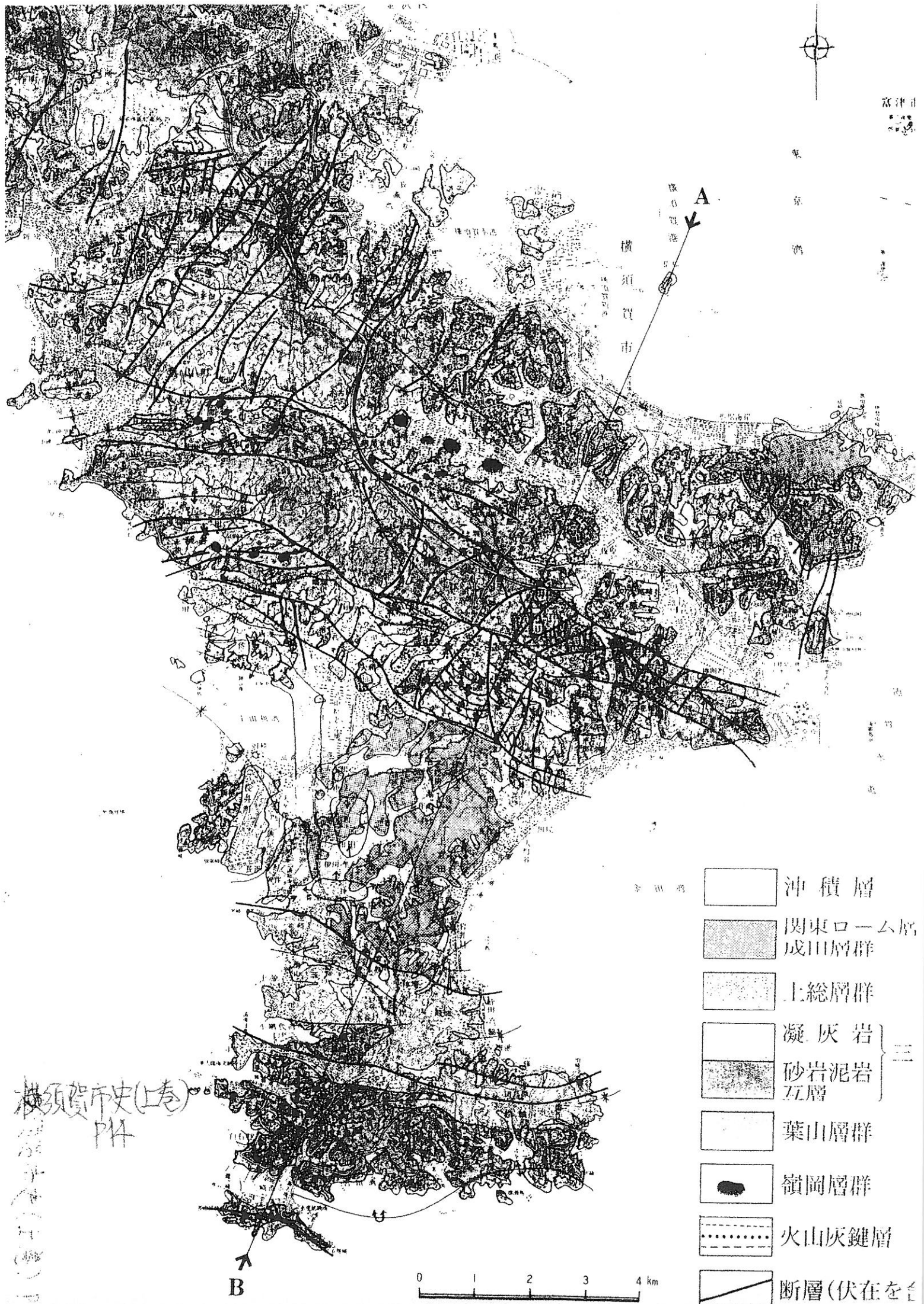
	被害想定	対策
震度	全県において震度6強以上 液状化：海岸沿い・低地・河川流域 埋立地・盛土分譲地	→逗子海岸・田越川
津波	最大クラスの津波高さ：12.8m/11分後 津波浸水想定図：参照（沼間交番付近）	※高台へ逃げる ※高台無ければ堅固な高い建物へ
建物被害	県内：全壊約55万棟・半壊約44万棟 逗子：全壊7,900棟・半壊5,140棟 （市内の約半数）	※耐震対策は自己責任
火災	県内：2,320箇所出火→消防車両2,263両 →約28万棟全焼 逗子：20箇所から出火→消防車17両 →2,160棟全焼	※迅速な初期消火 ※県内消火栓：91,483箇所 ※逗子市消火栓：534箇所 （沼間1丁目消火栓：約30箇所）
自力脱出 困難者	県内：約10万名→救助工作車62両（H25） 逗子：1,180名→工作車1両・隊員10名	※迅速な人命救助
重症者 （従来定義 の重傷者）	県内：約1.7万名（約8万名）→救急車 278両ヘリ10機（横×2川×2 県警×5 東海×1） 逗子：160名（780名）→救急車3両	※救急医療 VS 災害医療（トリアージ） ※県内災害医療拠点病院：33箇所 （重症者・中症者・軽症者） （重傷者・軽傷者）
死者	県内：142,230名（津波死者：約11万名） 逗子：11,460名	※検視・検案、棺、遺体安置所、葬儀、 輸送、火葬、仮埋葬、
避難者 /避難所難民	県内：約489万名 逗子：40,660名－19,763名＝約2万名	※避難所避難＞避難所収容能力 ※自宅避難：
帰宅困難者 /帰宅難民	県内：約61万名 逗子：2,020名	※帰宅する手段を持っておく （あなたの足は何ですか？）
高所難民 /高層難民	高層マンション 高台住宅地	※4階以上の高さで生活できますか？
ライフライン	電力：完全停止 復旧迄？日位 都市ガス：完全停止 復旧迄30日位 上水道：？ 復旧迄40日位 下水道：機能障害 復旧迄2ヶ月以上 通信：ほとんど停止 復旧迄？日位	
道路・鉄道	道路：県全域で1ヶ月程度 通行規制 ：県西部～三浦半島1ヶ月程度通行止 鉄道：県北部を除き広範囲で最大10日 以上不通	

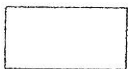
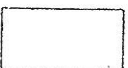
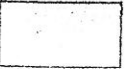
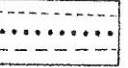
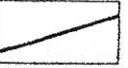
根拠：神奈川県地震被害想定調査報告書（H27年3月・神奈川県地震被害想定調査委員会）

神奈川県：人口約900万人・約400万世帯 逗子市：人口約6万人・約2.4万世帯

※大規模災害時：初期段階で公的機関が多数の被災者に対して迅速な対応をすることは不可能

※大規模災害時：被災者同士が自助・共助で助け合わなければ「人の命」は救えない



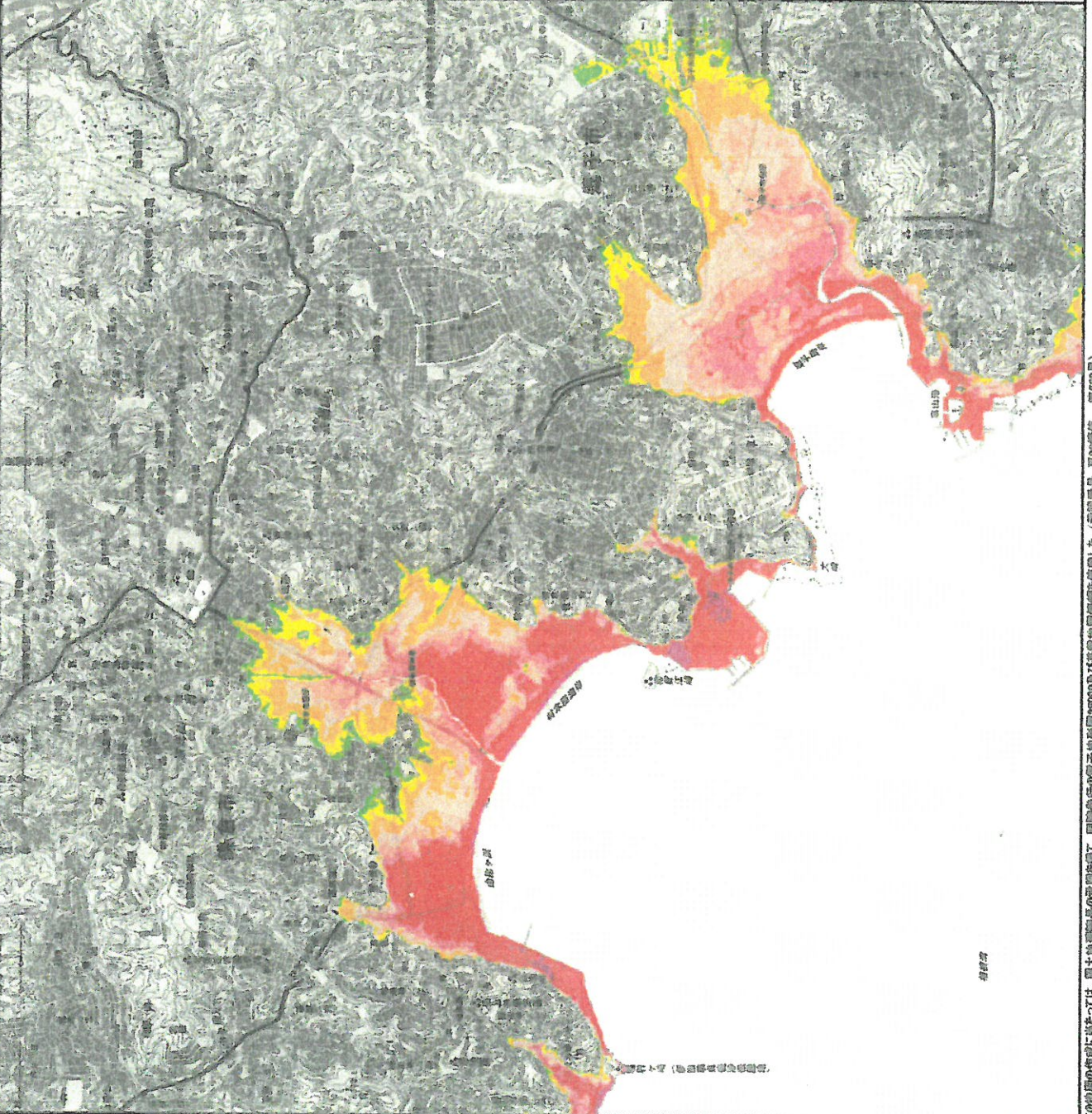
-  沖積層
-  関東ローム層
成田層群
-  上総層群
-  凝灰岩
-  砂岩泥岩互層
-  葉山層群
-  嶺岡層群
-  火山灰鍵層
-  断層(伏在を台

三

最大クラスの津波の高さ						
沿岸	市・郡	区・町	津波高	到達時間	想定地震	備考
東京湾	川崎市	川崎区	3.5m	1 時間 34 分	慶長型地震	
	横浜市	鶴見区	3.9m	2 時間 8 分	相模トラフ西側	
		神奈川区	3.9m	2 時間 8 分	相模トラフ西側	
		西区	3.9m	2 時間 8 分	相模トラフ西側	
		中区	3.7m	2 時間 6 分	相模トラフ西側	
		磯子区	4.4m	1 時間 19 分	慶長型地震	
		金沢区	4.3m	1 時間 14 分	慶長型地震	
	横須賀市	東京湾側	9.2m	56 分	慶長型地震	
相模湾	横須賀市	相模湾側	13.2m	10 分	相模トラフ西側	
	三浦市		15.4m	11 分	相模トラフ中央	※城ヶ島 24.9m
	三浦郡	葉山町	10.2m	11 分	相模トラフ西側	
	逗子市		12.8m	11 分	相模トラフ西側	
	鎌倉市		14.5m	10 分	相模トラフ西側	
	藤沢市		11.5m	12 分	相模トラフ西側	※江ノ島 11.6m
	茅ヶ崎市		9.6m	16 分	相模トラフ中央	
	平塚市		9.6m	6 分	元禄連動	
	中郡	大磯町	17.1m	3 分	相模トラフ西側	
	中郡	二宮町	17.1m	3 分	相模トラフ西側	
	小田原市		11.9m	3 分	相模トラフ西側	※江の浦 12.0m
	足柄下郡	真鶴町	16.5m	3 分	相模トラフ西側	※真鶴半島 20.6m
	足柄下郡	湯河原町	13.3m	6 分	相模トラフ西側	

※：区域以外の崖地等における津波高の方が高い 4 市町

根拠：H27/2/27 神奈川県津波浸水想定検討部会



【位置図】

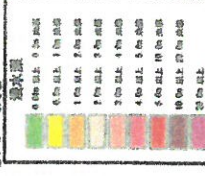
作図範囲：
相模湾に面する市町
葉山町
鎌倉市
藤沢市



【留意事項】

- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて算定するもので、津波防災地域づくりに実施するための基礎となるものです。
- 「津波浸水想定」の算定となる津波浸水予測にあたっては、対象とする地域ごとに、浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）が最大となるよう、最も厳しい条件を想定しています。
- 「津波浸水想定」は、津波浸水予測図を基に、浸水域と浸水深が最大となるよう、重ね合わせた図面（津波浸水想定図）を作成し記載しています。
- 「津波浸水想定図」では、シミュレーションで再現し切れなない局所的な地盤の凹凸や建築物の影響があることなどから、「津波浸水想定図」における浸水域以外でも浸水が発生したり、浸水深が大きくなったりする場合があります。
- 「津波浸水想定図」に示した最大の浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降の津波によって生じる場合があります。
- 「津波浸水想定図」では、河川内については、津波による水位変化を示していませんが、津波の遡上に伴い、河川には水位が変化することがあります。
- 「津波浸水想定図」は、地盤の高さを基準とした浸水域や浸水深を示しており、地下街や地下鉄などの地下空間の浸水については示していませんが、実際には、津波が地下空間に流入する場合があります。

【凡例】



【用語の解説】

浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域
浸水深：陸上の各地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ

＜模式図＞

